創立50周年記念事業報告

創立50周年記念事業委員会 委員長の挨拶　平内 節子 —— 8
記念講演会　西沢立衛「近作について」—— 9
都市デザイン競技ー文化の香り高い都市（まち）づくりに向けてー
『姫路城を望むおもてなし空間』—— 10
北海道研修旅行 —— 16
記念式典 —— 18
シンポジウム —— 19
祝賀会 —— 21

創立50周年記念事業委員会 委員長のご挨拶

創立50周年記念事業
委員会 委員長

平内 節子

記念式典さかのぼること2年前（H17）、「姫路の文化」をテーマに掲げ、準備会が動き出した。会員の負担にならぬよう…と危惧しながらも、夢は膨らみ

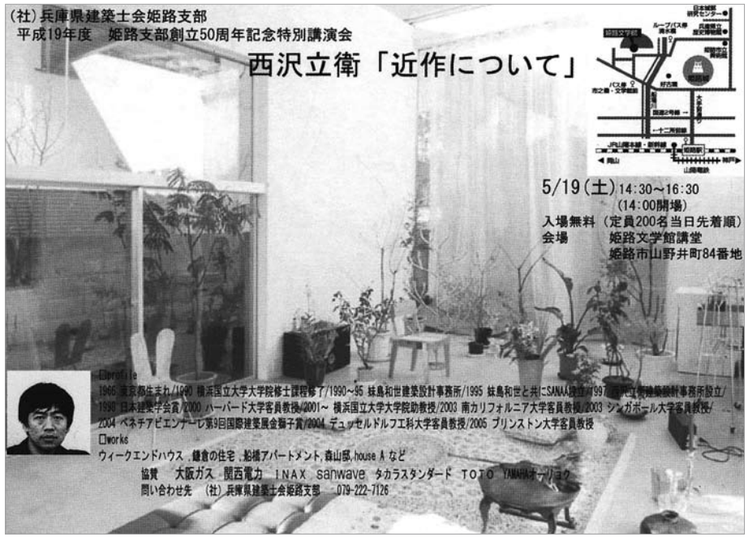
1. 全国公開アイデアコンペ
2. 北海道全国大会に絡めて研修旅行「北海道の旅」
3. コンペ作品表彰 ～ パネルディスカッション ～ 祝賀会

という3本の大きな柱に向かって遅くまで協議が続いた。

翌年（H18）には記念事業委員会発足。毛利元就の3本の矢の如く、それぞれが活動開始し、矢は放たれた。ことに旅行に関しては慎重な担当者の審議の成果あり、危ぶまれた参加人数も無事クリア、他支部の方々の参加も戴き、25名の大所帯で3泊4日の旅は笑いの渦と共に無事着陸した。コンペ募集に関しては最終日まで気をもんだが、仕事上私たちも経験どうり、最終日に殺到。これも全国北から南から25件の応募をいただき、審査に入る。老若男女様々な角度からの視点に、見入る作品多く甲乙付け難し。その盛り上がりをそのまま当日シンポジウムに向けた。初めて会う入賞者との会話には、若者のしっかりした考え方に安堵の気持ちと共に頼もしさを感じた。会場には住民の方々の熱い意見もいただきながら、2年間の『姫路の文化』を語ってきた私たちの集大成を見ることができたようだ。祝賀会ではシンポジウムに関わって下さった方々と、会員の皆様と共に、姫路支部50周年を無事迎えることができた喜びを舌鼓を打ちながら祝うことができた。ここに、皆様の温かいご協力に感謝します。

記念講演会

講師 ： 西沢立衛氏
日時 ： 平成19年5月19日（土） 時間 ： 14:30 ～ 16:30 / 会場 ： 姫路文学館講堂



平成19年度の建築家講演会は、支部設立50周年記念事業と致しまして「西沢立衛先生」を姫路にお招きしました。世界をまたに駆けてご活躍されている一方、国内では金沢21世紀美術館という傑作を生み出されており、計画の妙をぜひともお教えいただけたらの思いで、講演を拝聴していました。

当日の参加者は200名弱でしたが、大半は学生たちということで若い熱気に包まれ世界で活躍される建築家を目の当たりにできる喜びに胸をときめかせていたようです。

もちろん姫路支部会員の皆さんもいつものご自分の仕事と重ねながら、感銘を受けた部分が多かったのではないでしょうか。その後の場所を移動しての懇親会では、さらにリアルな話を拝聴しとても有意義な一日になったことを感謝しております。

姫路ではなかなかこのような機会を持つことが出来ないですが、一年に一回とはいえ今後とも継続していきたい事業と切に願っています。（ 浦 篤志 ）

「講演会では、メディアでよく見かける建築も西沢さん本人のお話ということもあり、また違った観点でみることができました。さらに講演会後の懇親会では、プライベートなことや学生時代のこと、妹島さんの事務所にいらっしゃった時のことなど貴重なお話しが聞け、大変良い時間を過ごせました。

このように普段とは違った形で建築を勉強できる機会が持てたのも、建築士会みなさんの講演会等活動に対する熱意のおかげだと思っています。これからの企画も楽しみにしています。ありがとうございました。」 当日参加された兵庫県立大学の西田 幸恵さん

• 西沢立衛氏プロフィール

1966
東京都生まれ
1990
横浜国立大学大学院
修士課程修了
1990～95
妹島和世建築設計事務所
1995
妹島和世と共にSANAA設立
1997
西沢立衛建築設計事務所設立
1998
日本建築学会賞
2000
ハーバード大学客員教授
2001～
横浜国立大学大学院助教授
2003
南カリフォルニア大学客員教授
シンガポール大学客員教授
2004
ベネチアビエンナーレ第9回
国際建築展金獅子賞
デュッセルドルフ工科大学
客員教授
2005
プリンストン大学客員教授

講演中の西沢立衛氏と講演を聴く参加者の皆さん

都市デザイン競技
『文化の香り高い都市（まち）づくりに向けて』

テーマ　「姫路城を望むおもてなし空間」

趣旨

今、姫路市では高架事業の完成を間近に控え、（財）都市づくりパブリックデザインセンターによる、魅力と活力あふれる交流都市の創出をテーマに、姫路駅周辺地区を対象としたアイデアコンペが実施され、多くの優れたデザインが提案されているのではないかと、発表が待たれるところであります。これからの駅周辺整備にあっては、これらのアイデアを生かした都心地区の再生が期待されるところでありますが、一方、姫路市の文化のシンボルゾーンである姫路城周辺においては、家老屋敷庭園が整備され、本年2月には大手門前の武者溜まりが完成して、一段と城は映えるものとなりました。

しかしながら、濠と緑と橋が調和し、都市のゆとりとして素晴らしい城郭環境が演出されたにもかかわらず、残念ながら城と都市（まち）との一体感に乏しく、城の足元である中心市街地にあっても、国宝姫路城を擁する都市としての歴史文化的雰囲気が伝わってきません。

姫路城が世界文化遺産となり、今後とも姫路のシンボルとして城を守り、育て、世界から来訪者を迎え入れなければならない以上、私たち都市（まち）は城に対して何ができるのか、何をしなければならないのか具体的に示さなければなりません。

来訪者に魅力ある姫路固有の文化を伝え、情報を発信し国際交流へと繋がっていくことは、都市（まち）に人の賑わいをもたらし経済に活力を与えます。

私たち建築士会姫路支部は、支部設立50周年にあたり、上記課題を踏まえた姫路城周辺のあり方について、いろいろな観点からのアイデアを求め、市民の皆様と一緒にその実現に努力して参りたいと考えています。

• 審査結果（ 敬称略 ）

最優秀賞
岸本 友恵
脇田 泰成
福元 美紗

優秀賞
本多 和之

優秀賞
本田 鉄兵
永野 俊哉

優秀賞
あかし夢街道
寺田 昌代
大西 和彦
嶋田 邦男
高橋 悟
花畑 裕
廣岡 茂久
藤田 大介
松尾 一久
松尾 新吾

特別賞
田持 成輝
大隈 亮佑

特別賞
Hs Work Shop – ASIA
平沼 孝啓

※ 応募総数　25作品

審査当日は、例年より少し寒い晴天の日でした。25の出品作品は、受付の番号順に無記名でパネルに張られテーブルに並べてありました。そこに審査委員会の審査員6名が登場です。審査は、作品パネルと計画主旨の文章とが対象になっています。審査員は、パネルのおかれたテーブルを何度も行き来し時間をかけて優秀作品を選び出していきました。約2時間の激論を経て、数点の作品に絞り込みました。

ところで出品作品について一言。作品は、コンペ出品馴れした物（模型を作り写真撮影したもの、CGパースを巧みに利用したもの）から、切り貼りのコラージュ物まで多岐にわたっていました。応募作品のレベルに少しばらつきが見られましたが、これは応募者の年齢層が幅広かったからです。主催者にとってはありがたい話です。

6名の審査員は、これらにとらわれず『姫路城を望むおもてなし空間』を純粋に考察されたものを次々と選択していきました。

審査は、選考が進むにつれだんだん熱をおびてきて大変でした。結果最優秀賞は、大手前通りをテーマに選び歩行者道路をセンターに設け様々な提案を繰り広げた作品に落ち着きました。

さらに激論の賜物として、当初予定に無かった特別賞を設けるほど、力作に恵まれた審査会でした。（ 藤本 正敏 ）

• 審査委員会（ 敬称略 ）

委員長
兵庫県立大学教授
志賀 咲穂

委員
神戸大学准教授
三輪 康一

姫路市技術審議監
宮原 慎

第40代姫路お城の女王
柴田 香織

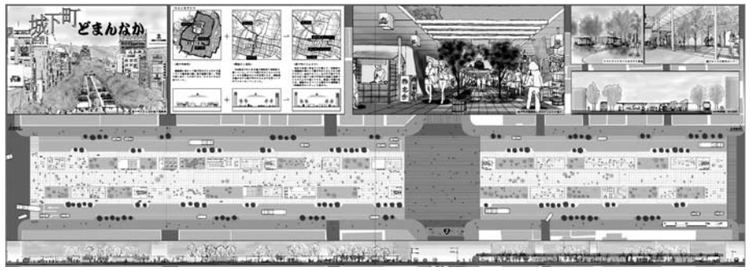
姫路市商店街連合会会長
松岡 淳朗

兵庫県建築士会姫路支部長
西田 清

最優秀賞

城下町どまんなか

岸本 友恵
脇田 泰成
福元 美紗
（ 鹿児島市 ）



- 昔も今も、姫路のどまんなかには、世界遺産・姫路城があります。
- 世の中は成熟社会を迎え、人々は都市回帰を望み、交通体系は変化していきます。そこで私たちは、姫路城を望む「城下町どまんなか」を、自動車のための空間から、再び人間のための空間として取り戻すことを提案します。
- 現在の車道部分を歩道化、車道は現在の歩道側に車線を減少させ、トランジットモール化し、再配置します。
- どまんなかの歩道部分の両側に、町屋のスケール感を取り入れた出店スペースを設け、カフェ、おみやげ店のほか、城下町の情緒あふれるお店を集めてにぎわいを創出します。
- 出店スペースのところどころには、左右の町名を付けた「横丁」というポケットパークを設け、観光の拠点とします。
- 国道2号線をわたった丸の内側では、出店スペースに「姫路都市センター」を設けます。
- 都市センターは、城下町時代から、戦災復興、そして今日までの姫路のまちづくりを紹介する博物館で、昔の絵図や、城下町の模型、近代都市の設計図などを収集・展示します。
- どまんなか通りから都市センター、城と進むに従って、町人地、武家地、城内の情緒を順に体験します。

「城下町どまんなか」構想は、姫路の過去と現在・未来を結び、姫路のまちを、訪れる人々の心のどまんなかに印象づけるプロジェクトです。

優秀賞

天守閣に一番近いまち

（ 男山南地区 ）

本多 和之（ 泉南市 ）

「おもてなし」とは趣向を凝らした演出の中に、「おもてなし」する人がいて、お客様がいて、そして、「時間と空間を共有するドラマ」だといえます。

姫路を訪れる人が「姫路城」「旧城下町」「近代的なまち」の3つを体感することができたならば、姫路というまち全体をおもしろいと感じ、また、それぞれに興味を持って訪れることができると思います。そういった意味で重要な要素である「旧城下町」の雰囲気を残す「男山南地区」を提案の対象地区としました。

城が世界遺産であるならば、その城下町もまた相応の文化的な価値があると思います。つまり、この地区は世界に誇れる場所であり、誇るべき地区です。もっと自慢してほしいという意味をこめて、基本コンセプトは「天守閣に一番近いまち」としました。

まちが生きている以上、まちは変化します。今ここでもう一度、このまちをどんなまちにしたいのか、どんなまちに住みたいのかをイメージし、共通の夢をもつことが必要であると思います。この提案は、これまで歩んできたまちの歴史を再認識し、将来のまちの姿・夢についての共通のイメージをもち、その夢の実現に必要な具体のプロセスのイメージ作りをするための提案です。

優秀賞

お城のむこう

本田 鉄兵
永野 俊哉
（ 大阪市 ）

今回、おもてなし空間を考えるにあたり、改めて姫路の街を歩いてみました。
次の事が印象に残りました。

- 古い日本の美しさを感じた好古園
- 両側を背の高い石垣に囲われた姫山公園
- 国道2号線沿いで、突然「自然の壁」として現れた中堀の石垣
- 両側を船場川と内堀に囲まれた遊歩道

これらの場所で、姫路に残る城下町の奥深さ、広さを角を曲がるたびに感じました。ただ、本丸が賑っているにも関わらず、観光客の方を見かけなかったことが残念でした。

そこで、これらの場所にも観光客の方に足を運んでもらい、姫路城下が持つ奥行きや広がりを見つけてもらいたいと思います。

提案：具体的には、夜のイベントを提案します。

夜にイベントを行うことにより、宿泊を促し、時間を作ってもらうことが重要と考えたからです。内容に関しては、本丸が観光地としての玄関口とするならば、その奥である姫山公園に誘う仕掛けを考えました。

優秀賞

城をつつむゆらめき空間

あかし夢街道
寺田 昌代
大西 和彦
嶋田 邦男
高橋 悟
花畑 裕
廣岡 茂久
藤田 大介
松尾 一久
松尾 新吾
（ 明石市 ）

私たちは、住む人訪れる人、共に心地よい空間となるよう、まちと城が一体となる「姫路城を望むおもてなし空間」を地元の特産品を使い提案します。

「姫路城を望むおもてなし空間」とはどのようなものか。

それは、歴史を湛えた姫路城を取り囲む城下町を「安らぎ」を持った空間にすることです。

「ゆらぎ（ゆらめき）」の理論に基づいた「光」、「風」、「音」を総合的に演出することで、訪れる人々の五感を癒す自然な「安らぎ」の空間となると考えました。

「光」のゆらぎで浮かぶのは木漏れ日や水面の反射光があります。昼は水鉢を利用し、その水面に写る光を、また、夜には灯篭、蝋燭の明かりによる光を利用します。

「風」は木陰での自然風で癒される効果を利用しますが、それを際立たせるために「音」を組み合わせたいと思います。姫路の名産、明珍火箸（みょうちんひばし）を使って、風に吹かれたその音色で通り行く人々に風を気付かせることができないかと考えました。

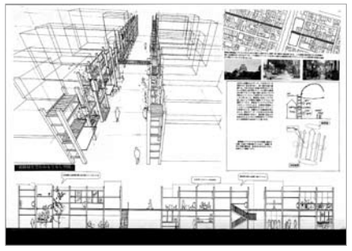
また、「風」を演出する道具として、暖簾も挙げたいと思います。店先の暖簾が風をはらんで膨らむ様は通りに動きを付けますし、暖簾によって、通りの雰囲気をがらりと変えることもできます。

機能重視でゆらぎのないモノに囲まれて息が詰まる現代人に「風のそよぎにふわりと揺れて、チリリン～と涼やかな音色を響かす明珍火箸。その音色に惹かれて顔を見上げると姫路城が見えた。」そんな光景を見せる空間の演出で、人の気持を安らかにする。また、まちぐるみで取り組むことにより、住む人にとっても訪れる人にとっても魅力的な空間が創出できるのではないでしょうか。

特別賞

姫路城を望む
おもてなし空間

田持 成輝
大隈 亮佑
（ 藤井寺市、神戸市 ）



姫路の街が姫路城との一体感に乏しいとされるのは、姫路城の曲輪に直交する軸が強過ぎて、曲輪に沿う軸が表に現れていないせいであると思います。

地域住民の生活空間である曲輪に沿う軸を、もっと町の表情として表に出すことで、姫路の街の住民生活の暮らしがみえるようになり、その暮らしの中で、姫路特有の文化や歴史、生活などといった姫路らしさが町に漂ってくるのではないか、住民活動も積極的になり、観光客などの外部の人が姫路の街に接する機会が増えるのではないかと考えました。そこで地域住民相互の、もしくは、地域住民と観光客などが接するおもてなし空間を町に作る事を提案します。

商店街に、フレキシブルな構造体を作り、利用者が様々な使い方を発見できるような建物、すこし余白のある建物を提案します。

使う側が自由に使い方を想像できるような、木造の骨組みに様々な大きさのスラブや間仕切りを差し込むことによって利用者がスペースを自由に作り、様々な生活の形を起草させるようなものが姫路の町の表にあれば、様々な形の人と人との交流が行われるおもてなしの空間ができるのではないかと思います。

参加いただいた多くの皆さんに感謝をこめて

～ 都市デザイン競技応募作品展（ 応募全作品を展示 ）～

平成19年11月1日（木）～11月6日（火）10:00～17:00 イーグレひめじ4階 ギャラリーにおいて、都市デザイン競技「姫路城を望むおもてなし空間」応募全作品を全数展示を実施しました。

応募して頂いた全作品をパネル化し、建築士会会員のみならず、広く一般の方々、姫路市民の方々へ見て頂きたいという思いでパネル展示を行いました。イーグレ4階のギャラリーは、姉妹都市展示コーナーのあるスペースでもあり、世界遺産「姫路城」をもつ、我が町を再認識する上で最適な会場となりました。

姫路支部50周年記念都市デザイン競技を担当したスタッフ、記念事業を担当したスタッフで展示会場の設営を行いました。パネルを展示する為に全作品を広げ、配置レイアウトを検討していきました。全作品を広げてみる事で、改めて、応募作品の力強さ、思いの深さを感じました。

展示を終え、一通り作品を見て歩きました。自分たちの住む『姫路のまち』を色々な視点、切り口で捉え、地元に住む者として、地域を振り返ることのできるすばらしい提案ばかりでした。デザイン競技を企画、運営できた事は、これからの建築、設計、町づくりにとって貴重な経験となりました。応募頂きました皆様、本当にありがとうございました。

建築の仕事に関係する私たちが「まち」を考える良い刺激となりました。（ 森垣 隆寛 ）

特別賞

展望型の
高架式遊歩道

Hs Work Shop – ASIA
平沼 孝啓
（ 大阪市 ）

現在の大手前通りは、非常に強い軸線を持ち、主要な姫路駅から姫路城へと強く導く。この直接すぎるアクセス環境が強すぎるため、街の他の場所へと向かう方向性を消しているように思う。

私たちはこのような現況を踏まえ、大手前通りと二重に重なり点在する広場のようなアプローチ空間を想定し、街の魅力をわかりやすく伝えることのできる、アプローチ空間の現実化を試みた。

高架式の歩行デッキは、軸線の持つ方向性を周囲へと視線を分散する形状が必要である。高架式とすることで、駅を降りた人々は、緩やかなカーブを描く高架式デッキ上に降り、周囲を眺めることができる。デッキは広場スペースを兼ねることで、人の賑わいを感じ、遠くに象徴となる姫路城を望みながら進むこととなる。地上では、アーチ状の構造体が、門のような場をつくる。城までアプローチする間、門をくぐりぬける体験を通し、城下町のイメージを高める装置となることを意図した。

審査講評

今回のコンペのテーマは、姫路市にとって永遠のテーマとも言えるものでした。それだけに対象も提案内容も色々に考えられ、たくさんの作品を出していただけるか心配していたのですが、25もの力作が寄せられホッといたしました。

さて、今回いただいた全提案を提案対象で分けますと、城下全般をあつかったものと、大手前通りへの提案が各7件と多く、お城の周辺地域を対象としたものが次に続いていました。

また、提案内容では、修景や雰囲気作りなどのソフトを扱ったものが最も多く、次いで大手前通りへの街路整備で、建築士会の本業である構築的なものを圧倒していました。これは都市づくりというテーマのなせるところでもあり、時代の感覚でもあるでしょう。また、様々な立場の方々から提案をいただいたと言うことでもあったでしょう。

審査は、まず委員の投票により約半数に絞りました。そしてその中から優秀賞4点を選ぶという手順で行いました。この段階で全員から推薦を受けた作品が2点あり、最終的には委員の議論によってその内の1点を最優秀賞としました。また、このとき優秀賞4点にもれた作品の中から、委員の強い推薦を受けたユニークな作品に特別賞を出すことにいたしました。

まず最優秀賞は、「城下町どまんなか」構想と題して、今の車道部分を歩行者空間として、車道を制限してトランジットモール化する提案です。道路の真ん中に城下町らしい仕掛けや横丁などの空間を設け、かつての国府寺小路のにぎわいを創出しようというものです。これは決して目新しい発想ではありませんが、大手前通りを人間の空間に取り戻そうという提案は、全員の賛同を得ました。交通計画などの課題もありますが、姫路城と大手前通りという姫路市の財産を活用して、すぐにでも取りかかって良い提案でしょう。

次に、最優秀を最後まで競った作品は、「天守閣に一番近いまち」として、男山南地区を取り上げました。今もかすかに残る旧城下町の雰囲気をブラシュアップして、姫路を訪れた人へのおもてなしにしようという提案です。この作品が評価された一番の理由は、場所を限って大変綿密な調査と的確なプレゼンで、その魅力を浮かび上がらせたことでしょう。普段気が付かなかった場所を、おもてなし空間として演出しようというのは、まさにまちづくりの視点でしょう。

優秀賞の2つめは、「お城のむこう」と題した夜のイベントの提案でした。もう一寸向こうまで足を運んでもらえば、きっとお城だけではない姫路の魅力を感じてもらえるのに、というのは誰も感じていることでしょう。そこはかとない灯りで誘導する夜お城周辺には、ゆったりとした癒しの空間を感じました。

もう一つの優秀賞も、お城の周りに癒しの空間をつくる提案で、「城をつつむゆらめき空間」と題されていました。この作品では、木漏れ日や水面の反射、よりの灯籠や蝋燭などの「光」、暖簾や風鈴を揺らす「風」、また風の存在を際だたせる明珍火箸の「音」など、決め細かな演出で現代人の心を安らかにしようというところに共感が集まったと言えます。

以上が最優秀賞、優秀賞ですが、そのほかに委員からの推薦で2点の特別賞が選ばれました。その1つは西二階町商店街に、連続する木造の格子状の構造体をつくって、街の一体感と共に、利用者が多様な使い方を発見できることを提案したものです。その建築的手法の確かさに強い推薦がありました。

もう1点は、大手前通りに蛇行する遊歩道デッキをつくる提案でした。駅からお城へのアプローチをスムーズにし、街の雰囲気を一望してもらおうということですが、地上からの景観を阻害するのではという批判もありました。しかし、何よりもグラフィックデザインの美しさには全員の評価がありました。

以上、審査委員会を代表して、審査の経過と受賞作品への講評をご報告いたします。（ 審査委員長　志賀 咲穂 ）

北海道研修旅行

旅行期間 ： 2007年9月8日（土）～10日（月）　2泊3日
参加人員 ： 25名

この度、50周年記念事業の一環として、社団法人 建築士会連合会の全国大会が北海道帯広で開催されるにあたり、本大会に参加すると共に、研鑽のため道内の建築作品を見学するという企画の研修会を2泊3日で行いました。

9月8日、前日から先発の3名を除く参加者22名は神戸空港で集合した後、8:00の航空便で出発し千歳空港に到着。その日は一路全国大会の開催地となる帯広のとかちプラザへと向かいました。そして会場には予定通り辿り着くことができ、本大会で姫路のまちづくり活動を発表する中山専務理事のホールへ入り参加しました。また、パネルのコーナーでは、中山さんの奥さんのご協力により紹介が行われており、まちづくり活動で2位表彰を受賞することができました。

その夜は、先日から参加していた平内副支部長も合流し、全員そろって懇親会を北海道ホテルで楽しく催すことができ、皆と共に「北の屋台」とよばれるまちおこしの場所へ行き、帯広の夜を満喫いたしました。

2日目は天候にも恵まれ、富良野の大草原の中を車窓からの眺めを味わいながら、途中「北の国から 拾って来た家」という映画に使用されたリサイクルの住宅作品を見学し、札幌市街へと向かいました。当地では、彫刻家イサムノグチの最後の遺作と呼ばれるモエレ沼公園を見学しました。その中でも、中核となるガラスのピラミッドと呼ばれる建物は、絶賛に値する建築作品で、公園全体も彫刻のような構成になっており、とても一時間では物足りない質の高い空間構成でした。

3日目は小樽に向かい、「にしん御殿」と呼ばれる市指定歴史的建造物旧青山別邸を見学した後、小樽の運河、北一ガラス館など町並み見学を自由散策で行いました。この日も集合時間一杯まで皆さんそれぞれ熱心に目的を持って見学されていて、充実した一時を過ごすことができました。その後、札幌市内に戻りサッポロビール園内の整備工事が終わった諸建物を見学しながら、ジンギスカンとビールで楽しい最後の会食を頂くことができました。

そして、10日PM 7:10伊丹空港到着後解散し、全員無事全日程を予定通り終了しました。今回の研修旅行では、神戸・加古川支部の会員の方々も参加され、支部間の交流の機会にもなり、姫路支部の会員の方も含め参加者が非常に熱心な方で、周年事業として価値ある密度の濃い、充実した思い出に残るツアーとなりました。

（ 事業委員会　北海道旅行担当委員　西嶋 宣久 ）

• スケジュール

8日（土）　神戸空港 -- 新千歳空港 -- 日勝峠 -- 帯広市市民文化ホール（全国大会参加） -- 帯広市内（泊）　懇親会：北海道ホテルにて「和洋会席料理」
9日（日）　ホテル -- 富良野市内 -- 滝川IC -- 砂川SA -- 札幌IC -- モエレ沼公園 -- 札幌（泊）
10日（月）　札幌 -- 小樽市内観光（小樽運河・北一硝子など） -- サッポロビール園 -- 新千歳空港 -- 伊丹空港　～着後、解散～

参加者寄稿

アイヌの民族演舞
かって和人による圧迫と差別に苦しんでこられたアイヌの方々がその様なことを微塵も感じさせず建築士会の大会に協力し量感あふれる演技を披露されいたことに感動しました。今なおアイヌの人たちに対する差別意識が残る現状を早く改め歴史に学びアイヌ文化を日本の文化として守り残さなければならないと感じた次第です。
（ 姫路支部　原田 建弘 ）

札幌・朝の二条市場
素敵な《ガラスの浮き》を利用したコードペンダントの暖かい光と沢山の北海の珍味。床の模様も頑張って、いるよ。
（ 神戸支部　奥井 正造 ）

他支部の方も参加
（ 加古川支部　古田 充 ）

旧北海道庁
ライトアップされた旧北海道庁です。
（ 加古川支部　秋田 克司 ）

1	2
	3
4	
5	

1. 9月8日 全国大会会場前 / 2-3. 9月8日 全国大会中山氏発表風景 「歴史と出会えるまちづくり 船場城西の会」 / 4. 9月8日北海道ホテルにて / 5. 9月9日モエレ沼公園にて

参加者寄稿

イサム•ノグチの彫刻作品
「ブラック・スライド・マントラ」です。黒御影石で製作された滑り台で、裏側から登ります。冬の真っ白い雪景色の中で見れば、この“ブラック”は際立つでしょうね。
（ 姫路支部　藤原 哲也 ）

旧青山別邸
大柄な大屋根の中に異なった鬼瓦、棟積、そして越屋根と趣向を凝らした形である。

旧青山別邸の玄関上部の懸魚、拝み巴瓦、鬼瓦であるが、にしん漁の姿、ふくよかなにしん、そして商売繁盛を願う恵比寿と「にしん御殿」を簡潔に集約して語る姿である。
（ 姫路支部　西嶋 宣久 ）

サッポロビール園

日本銀行旧小樽支店

（ 加古川支部　吉田 文男 ）

記念式典

日時：平成19年11月10日（土）　14:00 ～ 15:00
場所：姫路キャッスルホテル　『 松竹 』の間

一、　開式の辞
一、　主催者の挨拶　　創立50周年記念事業実行委員長　渡邊 一洋
一、　物故会員追悼 ならびに黙祷
一、　支部長あいさつ　　姫路支部長　西田 清
一、　ご来賓祝辞　　姫路市長　石見 利勝
　　社団法人 兵庫県建築士会 会長　垂水 英司
一、　ご来賓紹介
一、　表彰式
一、　閉式の辞　　創立50周年記念事業実行副委員長　中山 栄一郎

表彰者	功労賞	第4代 支部長	井上 敏弘
	〃	第5代 支部長	桑原 隆夫
	永年会員表彰	1952年3月入会	高野 美秀
	〃	1952年7月入会	蔭山 司郎
	〃	1958年4月入会	北村 喜八郎
	〃	1958年4月入会	黒崎 昇
	〃	1960年8月入会	栄藤 煇
	〃	1960年9月入会	林 昭
	〃	1961年4月入会	堀 堅造
	〃	1961年6月入会	大橋 博由
	〃	1962年2月入会	寺本 喜亘
	〃	1962年5月入会	岩崎 嘉治
	〃	1962年9月入会	前田 義文
	〃	1962年10月入会	松ヶ下 正人
	〃	1964年6月入会	河崎 福藏
	〃	1965年6月入会	塩見 憲司
	〃	1966年5月入会	今津 至弘
	〃	1967年4月入会	石原 章弘
	歴代青年部会長	第14期	長尾 吉純
	〃	第15期	菊池 裕司
	〃	第16期	小寺 克樹
	〃	第17期	小林 和夫
	〃	第18期	上田 達也

（上から）
渡邊 委員長 / 西田 支部長 / 宮原 審議官（ 代読 ） / 垂水 会長 / 中山 副委員長

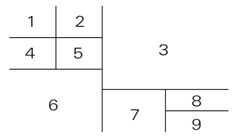
シンポジウム（ 第Ⅰ部 ）

日時 ： 平成19年11月10日（土）　15:00 ～ 16:50
場所 ： 姫路キャッスルホテル　3階『 錦 』の間

開催趣旨の説明 ―――――― 社団法人兵庫県建築士会 姫路支部長　西田 清

第Ⅰ部
　審査員のご紹介
　最優秀賞の表彰 ―「城下町どまんなか」
　　岸本 友恵、福元 美紗、脇田 康成
　　「天守閣に一番近いまち」本多 和之
　優秀賞の表彰 ――「お城の向こう」本田 鉄兵、永野 俊哉
　　「城をつつむゆらめき空間」あかし夢街道
　特別賞の表彰 ――田持 成輝、大隈 亮祐
　　建築デザイン研究室　Hs WorkShop - ASIA
　審査員講評 ―――― 審査委員長　志賀 咲穂

第Ⅱ部
　（ コーディネーター ）創立50周年記念事業委員会 委員長　平内 節子
　（ パネリスト ）第40代姫路お城の女王　柴田 香織
　　姫路市商店街連合会 会長　松岡 淳朗
　　神戸新聞社 姫路支社 編集部長　三好 正文
　　コンペ受賞者代表の6名



1. 式典受付 / 2. 開催趣旨の説明　西田 支部長 / 3. 最優秀賞の表彰　岸本 友恵　福元 美紗　脇田 康成 / 4. 司会者　渡邊 瑤子 / 5. 審査員講評　志賀 審査委員長 / 6. 会場風景 / 7-8. 会場風景　コンペ作品展示コーナー / 9. 会場風景　姫路駅周辺の昔風景

シンポジウム（ 第Ⅱ部 ）

1	2	3	4
5		6	7
		8	9

1. コーディネーター　平内 記念事業委員会 委員長 / 2. 会場 / 3. 審査委員の先生方 / 4-5. パネリストのみなさん（サークル型） / 6. パネリスト / 7-8. 会場内からも発言 / 9. 受賞者の方にも発言

「姫路城を望むおもてなし空間」と題して行われた設計競技に応募され、入賞された方々を囲んで審査員や新聞記者も交え、会場の皆さんと共に姫路のまちについて話し合うフリートークの時間を持った。応募25件のうち姫路在住7件以外、全国各地から送られてきたもので、最優秀賞は鹿児島からの参加者だった。これは、ここに住んでいる者には気づかない、見逃しそうな点への指摘を期待した。その当初のねらい通り入賞の4点からは、私たち住民は自然に、当然のように使っている・通っている空間を再認識させてくれた。眠っているお宝は沢山あります、いろんな楽しみ方ができます、と提案してくれている。内容によっては直ぐにでも対応できそうだと言われる商店街への仕掛け。中でも姫路の城下に一度住んでみたいという入賞者の声には嬉しかった。

会場からも多数の意見で盛り上がり、応募者からの「お城すべてが見えるのではなく、〇〇ごしに見える姿も美しい」という視点のもちように、改めてお城の楽しみ方を学び感動した参加者。大手前通りの使い方や城前の駐車場など、車社会から“ひと”の行き交う“ひと”の暮らすまちについて考え直す意見も多く聞かれた。

行政サイドからの意見も交わされ、この設計競技をきっかけに、住民が姫路のまち中のあり方やおもてなしの空間について考える機会をもてたことに意義あるシンポジウムになったと感謝している。（ 平内 節子 ）

祝賀会

日時：平成19年11月10日（土）　17:30 ～ 19:30
場所：姫路キャッスルホテル　3階『 雅 』の間

1	2	3	4
5			6

1.主催者の挨拶　平内 記念事業委員会 委員長 / 2.祝辞　中播磨県民局 県土整備部長 代理 中嶋参与 / 3.祝辞　兵庫県建築設計事務所協会支部長代理 鷲尾 副支部長 / 4.乾杯　兵庫県建設業協会関本 姫路支部長　/ 5.万歳三唱　/ 6.閉会の挨拶　長尾 実行副委員長

1. 主催者の挨拶　創立50周年記念事業委員会 委員長　平内 節子
2. 来賓祝辞　中播磨県民局　県土整備部長　網谷 善明
   社団法人 兵庫県建築設計事務所協会姫路支部長　楠田 一利
3. 乾杯　社団法人 兵庫県建設業協会姫路支部長　関本 盛男
4. 歓談・会食
5. 歴代青年部会長活動報告 歴代青年部会長
6. 創立50周年事業
   北海道研修旅行活動報告 創立50周年記念事業委員　西嶋 宣久
7. 歓談・会食
8. アトラクション（ギター演奏）創立50周年記念事業委員　坪田 充治
9. ラッキーカード抽選　姫路支部青年部会長　有國 智都子
10. 閉会の挨拶　創立50周年実行副委員長　長尾 吉純

歴代青年部会長活動報告

第14期
青年部会長
長尾 吉純

第15期
青年部会長
菊池 裕司

第16期
青年部会長
小寺 克樹

第17期
青年部会長
小林 和夫

第18期
青年部会長
上田 達也

歓談・会食

創立50周年事業
北海道研修旅行活動報告
画像にて説明する西嶋氏

アトラクション （ギター演奏）
熱演される坪田氏

ラッキーカード抽選
司会で盛り上げる有國氏